

翠 峰 (すいほう)

登録番号: 第5075号	山根弘康 栗山隆明 鶴 丈
登録年月日: 平成8年6月13日	和 清水博之 井樋昭宏
登録者: 福岡県(福岡県福岡市博多区東公園7番7号)	来 歴: 「ピオーネ」と「センテナール」の交雑実生
育成者: 松本亮司 能塚一徳 角利昭 白石眞一 平川信之	育成 地: 福岡県筑紫野市(福岡県農業総合試験場 園芸研究所)

特 性

■栽培特性

樹勢は強く、新梢の伸びは旺盛で、樹冠の広がり「巨峰」と同程度である。熟梢の色は暗褐色で枝梢の登熟は容易である。「テレキ5BB」台で中くらいから著しい台負けが見られる。開花期は「ピオーネ」とほぼ同時期で、花穂の着生数は「ピオーネ」より少ない。収穫期は育成地(福岡県筑紫野市)における雨よけ栽培では8月下旬から9月上旬で「巨峰」とほぼ同時期である。

■果実特性

自然状態の果房は有岐円錐形で着粒程度は粗一中である。果皮の色は黄緑又は黄白色で、有核果実の果粒形は長楕円形。果粒重は14gで「巨峰」よりやや大きい。裂果の発生は少ない。果皮と果肉の分離性はやや難で、肉質は崩壊性と塊状の中間、香気はない。糖度は示差屈折計示度で約17、酸含量は0.6%程度、渋みはなく食味は優れている。果実の日持ちは中ぐらいである。ジベレリン処理を行った無核果実の果粒は長楕円形で約15gと有核果実より大きい、その他の特性は有核果実と同様である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病害に対する抵抗性は、「巨峰」よりやや弱く、特に、施設栽培ではうどんこ病が発生しやすいので適切な防除を行う必要がある。縮果病は発生しない。その他の病害は「ピオーネ」と同様の防除によって防ぐことができる。

花振性が強く、有核果実を安定して生産することは難しいので、ジベレリン処理による無核・大粒果実生産が望ましい。ジベレリン処理は第1回目の処理を満開期から満開3日後の間に12.5～25ppmの濃度で行い、第2回目の処理を満開10～15日後に25ppmで行う。ジベレリン処理を行う場合の花穂の整形は開花始期に行い、上部枝梗を切除して花穂の先端3cmを使う。房作りは400～450gを目標に密着果房となるように30粒程度を着生させる。目標収量は1.8t/10a程度とし、結果過多にならないように果房の大きさと着房数に十分注意する。

幼木ではジベレリン処理果の果粒表面の果点が目立つことがあるが、ビニル被覆によって降雨を遮断することで軽減できる。

花穂着生数は長梢せん定では問題ないが、短梢せん定を行う場合には花穂数が不足する場合がありますため1芽せん定は行わず、2～3芽せん定を行う。

■地域適応性

欧州種の血が濃厚で病害にやや弱いので施設栽培を行うことが望ましい。露地又は雨よけ栽培では東北地方南部から九州までの地域で栽培でき、無加温ハウス以上の施設であればさらに北の地域でも栽培できる。また、緑色系の品種であり着色の問題がないため、黒色系品種で着色に問題のある地域でも容易に栽培できる。

(平川信之)